

# 特集 福祉大会と福祉作文



第34回 寒川町社会福祉協議会福祉大会

昨年12月9日(土)に福祉大会を開催いたしました。来場者250名という盛会の中、第1部の表彰式では地域活動への貢献や福祉作文の優秀作文発表など、本会から感謝を伝える場となりました。ここでは表彰の方々をご紹介します。

(順不同・敬称略)

## 社会福祉功労者の表彰・感謝

### 1 表彰

#### ◇社会福祉功労者

玉木光男、橋本悦子、草苺誠藏

#### ◇在宅高齢者介護者

山口晴美

### 2 感謝

#### ◇多額寄附者

旭ファイバーグラス労働組合、河西工業福祉協議会、サン建設株式会社、寒川町経営者懇談会、寒川ライオンズクラブ・寒河江臥龍ライオンズクラブ、創陶会、JX金属労働組合倉見支店、公益社団法人藤沢法人会、寒川キリスト教会

#### 3 神奈川県社会福祉協議会会長表彰(伝達)

八木希久代、三好繭子、中井佳世、入沢典子、田村裕一、譲原武敏、小笠原良夫、野島真理子、羽田幸弘

#### 4 神奈川県共同募金会会長感謝(伝達)

千野修二、大谷勝彦、二ノ宮雅一、社会福祉法人翔の会つくしの家、特定非営利活動

法人ともだち

#### 5 神奈川県社会福祉大会受賞者(報告)

金澤利美、庭野珠樹、熊谷靖子、三留当美代、森井順子

#### 6 福祉作文優秀作品

##### ◇小学生の部

関屋煌雅、田振杏美、常盤玲偉、向中野唯樹、小島由楽、菊地陽向、中野流那、佐藤汐夏、脇琥太郎、五十嵐颯詩、魚翔真、畠山紗玖良、森田亜花李、寺田優楽、石井悠叶、内田すず、佐藤希紀、篠崎ゆめな、高塩玲寿、深作蓮

##### ◇中学生の部

阿部百葉、打田里奈、太田菜々美、加藤紫乃、加藤椋音愛、川村彩花、栗田美里、中原美月、張野春菜、細川耕平





楽志亭 壱生氏



日暮亭 カナカナ氏

第2部では、視覚障がいのある日暮亭カナカナ氏（日暮勉さん）による「黄金の大黒」、師である楽志亭壱生氏（山口宣秀さん）による「試し酒」の落語会が行われました。

**福祉作文について**  
小・中学生を対象に毎年募集している福祉作文ですが、今年は505編の応募がありました。寒川町は県内でも上位の応募数となっており、福祉に対する関心の高さが窺えます。その中で、小学生の部20編、中学生の部10編が優秀作文として選定されました。また、優秀作文をまとめた福祉作文集を作成しました。町社協窓口にて配布しています。  
今回の特集号では、小学生の部の一部を紹介いたします。中学生の部は次号の特集で紹介する予定です。



**第41回神奈川県福祉作文コンクール入選者**  
寒川町から応募した作文が県のコンクールで入選しました。おめでとうございます！

**小学生の部**

○最優秀賞（日本放送協会横浜放送局長賞）

一之宮小学校二年 小島 由楽

○準優秀賞

一之宮小学校六年 中野 流那

○準優秀賞

南小学校六年 高塩 玲寿

**中学生の部**

○最優秀賞（テレビ神奈川社長賞）

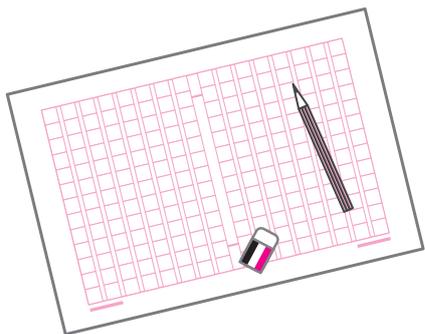
旭が丘中学校三年 加藤 紫乃

○優秀賞

旭が丘中学校三年 阿部 百葉

○準優秀賞

旭が丘中学校三年 打田 里奈



## 小学生の部



ひいおばあちゃんは  
わすれんぼう

一之宮小学校二年 小島 由楽

「いくつになったの？何年生？」

「7才、2年生だよ。」

「大きくなったわねー。」

…もう4回目…。これはわたしとひいおばあちゃんの会話です。ひいおばあちゃんは、わたしが4才の時にのうのびよう気になって、右手足がうごかせなくなりました。今は車イスにのって、かいごをしてくれるしせつにいます。それからひいおばあちゃんは、びよう気のせいでわすれんぼうになってしまいました。にん知しようと言うそうです。5分前に話したことをすぐわすれてしまいます。わたしの名前もときどきわすれてしまいます。何回も何回も同じことを聞いたり話したりします。さいしょはひいおばあちゃんのわすれらびよう気はかわいそうだし、しょうがないなと思ってしつもんにこたえていました。でも何回も聞かれると、めんどうくさいなと思う時もありました。でもおかあさんに話したら、

「わすれんぼうのびよう気はなならないけど、その時ひいおばあちゃんが由楽とわらいながら楽しい時間をすごせればいいんだよ。」と言いました。

わたしはよく夕方にしせつに行きます。するといつもえがおで、

「こんにちは。よくきてくれたわね。」

と言ってひいおばあちゃんはむかえてくれます。そしていっしょにおやつをたべます。一人ですんでいるひいおじいちゃんもよくきて、みんなでいろんな話をします。ひいおばあちゃんは、すききらいなく何でもたべるとつてもおしゃべりです。

今日もまたしゆくだいがおわったら、しせつに行きます。きつとまた、

「いくつになったの？」

「何年生？」

ってたくさん聞かれるかな…。そうしたら、何回でも

「7才、2年生だよ。」ってえがおでこたえようと思います。ひいおばあちゃん大すきだよ。



家族を通じて感じた福祉

一之宮小学校六年 中野 流那

私には二つ年上の兄と五つ年下の妹、十年下の妹がいます。兄と私はもう大きいので、父や母に世話してもらうことは少ないと思うのですが、まだ小さな妹達のお世話をするのはとても大変です。二年前の十一月に十年下の妹が産まれた時、私はとてもうれしくてかわいくて母から色々とお世話を手伝いました。母は妹を産む時には高齢だったので、出産後もなかなか体調が戻らず具合が悪そうにいましたが、毎日の家事や子供達の世話でゆつくりと休むむまもありませんでした。私はただ妹がかわいくてしかたなくてお世話をしていました。母は私を手伝ってくれて本当に助かるといつも言ってくれました。周りから見れば四人も子供がいるベテランの母ですが、子供のお世話をするのは体力的にもとても大変なことで、手伝ってくれる人、支えてくれる人がいることがとても大切なんだと思いました。

小さな妹と母と出かけると色々なことに気づきます。妹をベビーカーに乗せて出かけ

ると、階段のある所は通れないので、遠回りしてエレベーターを探したり、妹をだっこしてベビーカーを持ち上げて運んだり、少しの移動もとても大変です。買い物に行った時ベビーカーとカート両方押しているお母さんがいて、本当に大変そうで、周りの人に「すみません」と謝ってばかりでなんだか悲しい気分になりました。もっと周りの人が手伝ってくれたり、温かい目でみてくれればいいのにと思いました。私はあまり勇気がないので、電車に乗った時に子供を連れてくる人やお腹の大きい人に席をゆずるくらいしか今までにしたことがあります。気づくことがたくさんあってもなかなか言葉に出したり行動にするのは難しいです。

でもこれからは少しずつ勇気を出して自分の気づいたこと、助けたいと思ったことを言葉、行動にしてみようと思います。母がいづも私に助けてくれてありがとうと言ってくれるし、私以外の他人に助けてもらったことにもいつもとてもうれしかったと言っているから。



## 目指すべき福祉社会

南小学校六年 高塩 玲寿

僕は、視覚障害の人がどのような生活をしているのかを体験、話を聞いて感じたことや、思ったことがあります。

感じたことは、視覚障害には、弱視や全盲などいろいろな種類があります。これらによつて、どこに何があるのかが見えづらくなります。しかし、盲導犬や白杖などがあることによつて、少しの段差や障害物など、どこに何があるのか分かるのです。盲導犬や白杖は、視覚障害のある人たちには欠かせないものなのだと感じました。

大切だと思ったことは、さっき言ったように、盲導犬、白杖は目の不自由な人には欠かせないものです。しかし、白杖があるからといって安全ではありません。例えば、白杖を落としてしまった時、白杖があつても階段のある場所が分からないこともあります。それに、目の不自由な人は目は見えないけれど、耳は聞こえます。なので、横断歩道や道路をわたる時は車の音を頼りにしています。ですが、最近では音の静かな電気自動車もあるの

で音が聞こえづらいいのです。そういう時は、僕たちから、「段差がありますよ。」や「青信号ですよ。」など声をかけ、手を引いてあげたりして、手助けをしてあげることが大切だと思いました。

僕たちは勝手に障害者の人たちを特別な人として思いがちです。僕はある全盲の中学校の先生が書いた本を読みました。その中で、「障害者がテレビや新聞で取り上げる価値がない、当たり前前の時代になってほしい。」と言っていました。僕は本当にそうだなと心を打たれました。障害者はだれ一人として望んで障害者になつたものではありません。自分の意思に反して障害者になつてしまったのです。

みんな一人ひとりが違います。一人として同じ人はいません。だれもがたがいの違いを認め合い、理解し、思いやりを持って接していかなければいけないと思いました。障害を持つている人が悪いのではなく、障害者やその家族の負担を考えると、まだまだ生きづらい社会だということが問題だと思えます。変わるべきは僕たちや社会の方だと思えました。障害者という言葉がこの世の中から消えて無くなるような社会づくりを目指さなければいけないと思います。